

2-3 健康診断受診者における代替医療の利用状況および病院受診時の自己申告率について

○蒲原 聖可^{1, 2}、中野 優¹

1 (東京医科大学病院総合健診センター)

2 (DHC第一研究所)

【目的】健康志向をもつ健康診断受診者における代替医療の認知度および利用状況を調査すること。

【方法】2001年12月から2002年4月まで、東京医科大学病院総合健診センターの健康診断受診者のうち、20歳から80歳までの男女3,123人を対象に実施し、1,161人(37.2%)より有効回答を得た。

【結果】65.6%の受診者が、過去一年間に何らかの代替医療を利用していることが明らかとなった。過去一年間の利用状況では、サプリメントを利用しているとする人が42.0%と最も多く、次いで、マッサージ(31.2%)、リフレクソロジー(20.2%)、アロマテラピー(14.6%)、指圧(13.2%)、ハーブ(12.3%)、市販の漢方薬(10.2%)、整体(8.8%)、鍼灸(7.5%)などの順であった。アロマテラピーやリフレクソロジーなど、いくつかの代替医療では、認知度や利用状況に関して男女差が存在していた。

具体的なサプリメントの種類について、利用状況を尋ねたところ、ビタミンやミネラルを利用している人々がもっとも多いが、近年の傾向として、ハーブ・サプリメントやその他の植物由来の成分を利用する人も増加傾向にあった。

次に、何らかの代替医療を利用していると答えた人が病院を受診した際、代替医療について担当医に申告したかどうかを尋ねた。その結果、医師に自己申告した人はわずか21.1%であり、78.9%の人は申告していないことが明らかとなった。病院を受診した理由として、35.5%の人は代替医療を利用しているのと同じ病気や症状をあげた。

【考察】健康診断受診者の65.6%が、過去一年間に何らかの代替医療を利用していた。しかし、病院受診時には、代替医療について主治医への自己申告率が低い。ハーブ・サプリメントと医薬品との相互作用などの問題もあり、医師による問診が重要である。

・文献：蒲原聖可著『代替医療』(中公新書, 2002年)